



株式会社ペイク
代表取締役社長
野中英樹氏

ペット共生賃貸マンションの会社を起業し成功を収める。現在は、ペット共生住宅のコンサルタントなど、ペットを中心とした様々なビジネスを展開する株式会社ペイクの代表をつとめる。

ペットと暮らす賃貸住宅のプロに聞きました。

ペット共生賃貸住宅には さらなる可能性があります。 新しいビジネスのチャンスも。

快適に共生するため 設備にも独自の工夫。

ペットを飼うにあたって、飼い主が一番困っているのは“洗う”ということです。日常の散歩のあと、部屋に犬を上げるためには足を洗わなくてはなりません。多くのペット共生賃貸住宅には共用部に足洗い場を用意していますが、犬が嫌がるため使われなくなるケースが多いようです。そこで足洗い場に、犬が水を飲むためのボウルを設置します。すると犬は、水を飲むために自分から足洗い場に行くようになります。このように犬や猫の習性を利用した設備を考えることが大切なのです。まだたくさんノウハウがありますが、すべてを建築会社の設計などに提供します。ミサワホームで建てられる方も、ご相談していただければ良いペット共生賃貸住宅が建てられるはずです。

ペットのための 新しい資産活用も。

中型犬以上になると、犬を洗うのも大変です。ペット専門のトリミングサロンでシャンプーをしてもらったり、相場では、4500円程かかってしまいます。そこで弊社ではアパートやマンション



飼い主が自分でペットを洗うシステム。土地活用の新しい可能性が広がります。

ンの1室を利用して、ペットを洗うことができる無人化店舗を提案しています。ペット共生賃貸住宅の一室にこれを設置すれば、入居者には便利な共用部として喜ばれますし、別途、共益費に含まれることが可能です。しかも外部の人も1回2000円ほどで利用できるシステムにすれば、新たな収入源として期待ができます。共益費の上乗せ分と、外部のお客様からの収入を合わせると、概ね1室賃料の3倍程度の収入を見込める計算になります。さらにペットを飼う人が集まる場所になるわけですから、その賃貸住宅に空きが出た場合も、クチコミで入居者が決まるケースもあるわけです。このシステムを採用した賃貸住宅オーナー様には大変好評で、2棟目、3棟目も建てられたケースがあります。まさに今後の資産活用として、ペット関連は大きな可能性があるのです。